

西東京市地域包括支援センター別ワークショップ実施結果（抜粋）

	総括（前回と比べて）	目指すべき将来像（地区のあるべき姿）	地区の主要課題（将来像とのギャップ）	目指すべき将来像の実現に向けての事業提案	
田無町	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と比べ地域内で独居老人や認知症への課題認識が多くなっており、特に認知症に対する取組みは現在強化されている。また包括センターの認知度は未だ課題とされた</li> <li>障害と介護、家族間トラブルや高齢者の万引きなど問題の複雑化も新たに指摘された</li> <li>高齢者の閉じこもりなど、外に出ないことが課題として多く認識されている</li> <li>このため、ささえあいネットワーク等との連携で高齢者の意識が外に向くようにすることや、コンビニや商業施設等の有効活用などの模索や、高齢者の集いの場の更なる増加も求められている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆるやかな見守りができる地域</li> <li>長く住み続けられるまち</li> <li>相談しやすい、誰かに何でも聞きやすい</li> <li>困っていることを話しやすい</li> <li>高齢者に、生活に関する相談ができる場所がある</li> <li>地域住民・関係がつながる町</li> <li>風通しがいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が行きたい場所に何の心配もなく行ける</li> <li>歩く人のための道路整備ができています(バス停の所狭い)</li> <li>せつかく大型商業施設があるので買物を楽しめる</li> <li>高齢者が楽しく安心して買物ができるまちづくり(商店街)</li> <li>自分で介護予防に取り組める(方法を知っている)</li> <li>地域のリーダー後継者が見つかる</li> <li>介護と障害の連携。本人への支援、家族への支援が充実する</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 包括センターへの親しみやすさを上げることが必要(認知・理解)</li> <li>② 「通いの場」の情報提供の強化(サロン等でなく、施設(おふろ)などの資源)</li> <li>③ 認知症(認サポ)・介護保険(情報提供)などを40～60代の若年層へ横展開</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① PRの強化(顔のみえるセンターへ)。出向いてPR、チラシ配布(集いの場)</li> <li>② 掲示板、コンビニ、商業施設のフリースペースの有効活用</li> <li>③ 小学校父兄向けの認サポ</li> </ol>
泉町	<ul style="list-style-type: none"> <li>依然として、世代間交流の希薄さが課題として大きい。自治会がなくなっている傾向や世代交代で新しく転入してこられる方などの中で地域のリーダー的な人材の発掘が必要とされている。</li> <li>世代に関係なく集いの場として利用できる場所が求められ、泉小跡地等の活用等も望まれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店があり、利便性を取り戻し活気のある町</li> <li>あいさつを交わす相手がたくさんいる町</li> <li>お互い様とつながり合える町</li> <li>高齢者に思いやりのある、住みやすい町</li> <li>高齢者が歩けばサロンにあたる町</li> <li>元気な高齢者が増える町</li> <li>泉小跡地に地域の拠点として使用できる場所がある町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独死のない町</li> <li>災害時にも高齢者を守れる町</li> <li>迷子老人がいない町</li> <li>認知症の人が安心して暮らせる町</li> <li>地域の誰もが安心して暮らせる、医療と介護がつながっている町</li> <li>老いてもなおパートナー探しができる町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 集いの場に資するスペースの確保(公共スペースの規約、寺、広い個人宅など)</li> <li>② 次世代リーダー(60代後半～70代前)の発掘・育成(集いの主催、自治会、防災など)</li> <li>③ 人の集まる場所へ地域に届けこむため包括センターが出ていくこと(移転・旧泉小など/結女・レモネードカフェとのコラボ)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 泉小跡地の活用</li> <li>② 市職員(教師など)・消防・警察の退職者のボランティアネットワーク</li> <li>③ 自治会・タワーマンション(人の集まる所)への出張講座・相談</li> </ol>
新町	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の方が増えており、支援することへの住民の負担感や、認知症高齢者による地域での困り事への住民の理解や認識が低いという指摘があり、前回よりも認知症への課題認識が増えている</li> <li>依然として、近所つきあいの希薄さや、自治会活動の低迷などによる世代間交流に課題がある</li> <li>サロンが新設されている一方で、まだまだ高齢者の集いや住民交流の場は不足・偏在しており、現在の担い手の高齢化による新たな世代の担い手の確保と共に、場づくりの推進が求められている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困っている人を放っておかないよう、回りの人々がきづくことができる町</li> <li>住民同士で困りごとを解決できる町</li> <li>助け合いを気軽にできる町</li> <li>住民同士でも支え合える地域づくりができていく町</li> <li>支え合いの出来る町</li> <li>地域のために何かしたいという市民の思いや力を活かすことのできる町</li> <li>住民同士で介護予防に取り組める町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄り合える、行ける場が身近にある町</li> <li>住民同士で「元気?」「元気よ。」と気軽に声掛けできる町</li> <li>顔なじみの町(集える・助け合える・声かけられる)</li> <li>多様化する高齢者にとって「これなら」と思う集まりイベントがある町</li> <li>元気な高齢者の多い町</li> <li>周囲の認知症に対する理解があり、認知症の方でも安心して暮らせる町</li> <li>子供が安心して遊べる町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 集いの場作りの推進・増加(ほっとねっとへの協力を仰ぎ、半径1km以内・自分で行けるところに)</li> <li>② 担い手(支える側)の確保・育成・組織化(元気高齢者・ケアラー予備軍 50～70代)</li> <li>③ 認知症に対する理解を深める(高齢者本人・予防・周囲の知識)</li> <li>④ 住民の自助力を高めるための取組推進(情報・仕組み・啓蒙)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 集いの場の担い手作り(社協等の講座の活用・サロン立ち上げ・地域デビュー⇒参加者のキャッチ)</li> <li>② 対応 認サポの出前セミナーの強化</li> <li>③ 市民への地域包括ケアシステム啓蒙</li> </ol>
向台町	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と比べ、介護者自身も認知症や精神疾患を患っているなど高齢者を取り巻く問題が複雑化している一方、高齢夫婦のみ世帯や周囲に頼る方はいない孤独な高齢者の増加が多く、住民とのトラブルなどの課題も多く認識されている</li> <li>このため、地域で協力的な民生委員等も巻き込み、世代間交流を図るなど地域での見守りの目を増やすことが必要となっている</li> <li>また依然として、急な坂道が多く道が狭いといった地形的な事情や、交通量が多い上に、交通手段がなく、商店がなく買い物などへの課題もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が楽しめるイベント(おまつりなど)が定期的に開催される町</li> <li>となり近所で声をかけ合える町</li> <li>世代間が交流でき、支え合える町</li> <li>高齢者の食生活・健康面をサポートできる町</li> <li>認知症の方も一人で暮らせる町</li> <li>買物、移動支援への取組みができていく町</li> <li>地域リーダーをつくり、支え合うシステムがある町</li> <li>独居、高齢者世帯の把握(虚弱者、町別毎など)ができていく町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが安心して行き来できる町</li> <li>いつでも誰でも集う場所がある町</li> <li>子どもたちの認知症サポートの教育事業と坂道が多く買物が大変な家庭に品物を届けるなど、多世代交流と利便性を合体させる仕組みが構築されている町</li> <li>なるべく医療(せめて健康診断など受ける)に少しでもつながった状況をつくり、緊急対応時にすみやかに対応できる仕組みづくりができていく町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域での支え合いのレベルアップ(支援)。住民への意識づけ</li> <li>② 認知症、精神疾患、独居の把握とアプローチ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民への予防・健康についての普及啓発→実行(多くの方へ、フレイル)→支え合い、地域づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既存の活動場所の有効活用</li> </ul> </li> <li>② 情報収集(把握に向けた地域との関係づくり)自治会・管理組合の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 民生委員</li> <li>➢ 地域のリーダー</li> <li>➢ 自治会</li> </ul> </li> </ol>

	総括（前回と比べて）	目指すべき将来像（地区のあるべき姿）		地区の主要課題（将来像とのギャップ）	目指すべき将来像の実現に向けての事業提案
西原町	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と比べ、包括の周知は向上している（「何かあったら包括へ」という認識の広まりを感じている）</li> <li>集いの場が市内に増えているが、周知されておらず、情報も断片的にしか認識されていない。また高齢者にとって魅力あるテーマの集まりが不足しているという指摘も。こういった市民活動の場所が確保しにくいという課題もあげられている</li> <li>若い世代と高齢者の世代間交流によるつながりの強化や、買い物や集いの場へのアクセスに関わる交通・道路の点についても、前回に引き続き課題と認識されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害や認知症への理解がある町</li> <li>認知症になっても、体が動かなくなっても、引っ越さなくていいと思える町</li> <li>認知症になっても困らない町</li> <li>ボランティアがたくさん存在する町</li> <li>多世代間で支え合える町</li> <li>多世代と一緒に活動できる町</li> <li>時代に合わせた参加したくなる場所がある町</li> <li>秘密は守り、見守り合える町</li> <li>お互いに見守り合い、声かけ合える町</li> <li>倒れた時に早めに発見できる町</li> <li>新旧住民が助け合う町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困った時には助け合える町（できれば無料で）</li> <li>定年後過ごしたいと思う町</li> <li>ちょっと立ち寄って運動できる場がある町（できれば無料で）</li> <li>65歳になったら、老後に備える情報を手にできる町（フォーマル＆インフォーマルどちらも）。65歳～向け。練馬は65歳になったらくらしの便利帳が来る</li> <li>気軽に集い合いおしゃべりできる町</li> <li>集まる機会ができれば場所に困らない町</li> <li>高齢者も活躍できる町</li> <li>自分の得意なことを活かせる、披露できる町</li> <li>技術、得意分野を活かせる場のある町</li> <li>自分の楽しいことが続けられる町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>若い世代（50～75歳のケアラー世代）とのつながり強化</li> <li>新しい住民とのつながり（新しいマンション、戸建て）</li> <li>「良いモデル」の横展開（マンション自治会とのつながり等）</li> <li>“インフォーマルサポート”の利用促進（認知・関心・魅力・質向上）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>インフォーマルサポートの現状整理及び住民別の適切な伝達。65歳からのガイドブック（65歳～の暮らしに活用できるフォーマル、インフォーマル掲載の冊子作成）</li> <li>つながりの先行事例のシンポジウム <ul style="list-style-type: none"> <li>新しいマンション住民、自治会がない地域の住民向けに、住民同士つながりが強い地域をモデルとしてシンポジウム</li> <li>テーマは災害時の連携などとかかりが良いものからを想定するが、あくまでメインテーマは「地域内でのつながり」</li> </ul> </li> </ol>
緑町	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前よりも、包括への相談に認知症や看取り等も増えており、また、障害や家族の問題など、高齢者を取り巻く問題が複雑化していて、一層の多職種連携が求められている</li> <li>新しいマンションや核家族が多い中で、住民間のコミュニケーション不足が前回同様に課題として挙げられ、特に難しい地域の存在も指摘もあるなど、地域交流によるつながり作りが求められた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東久留米市包括支援センターとの連携を図ることができる町</li> <li>自治会との協力を密にできる町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代が高齢者のことを思ってくれる町</li> <li>多世代が交流できる町</li> <li>認知症を理解し、優しく接することができる町</li> <li>高齢者が地域で役割を持てる町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>看取り問題に関する認識が低い（80代～の年代で死や墓等の話題がタブーの方が多い）</li> <li>官（市役所・包括）と住民のコミュニケーションが難しい地区がある、主に新しいマンション（谷戸2丁目・3丁目等）</li> <li>若年層（30～40代）の新規入居者・既存住民との交流が希薄</li> <li>認知症への理解が少ない（全世代で）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>看取りに関する勉強会や講座を行う</li> <li>自治会・管理組合の把握</li> <li>学校や高齢者クラブと連携をしてイベントを開催（おまつり）</li> <li>認知症サポーターを増やす（認サポの小学校、企業への展開）</li> </ol>
富士町	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症や配慮の必要な高齢者（重度・経済的など）などが増えており、高齢者の問題も多様化していることから多職種や市の複数担当課で連携して問題に取り組む必要があることへの課題認識が多くなっている</li> <li>認知症高齢者の早期発見などへが重点取組課題として挙げられており、前回は「認知症の把握」であった点に比べると、深化した認知症への取り組みが求められている</li> <li>その他では、世代間交流や、交通・買い物といった点は依然として指摘がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の方と、その家族が負担なく安心して暮らせる町</li> <li>認知症の方を地域で支える体制が作られている町</li> <li>高齢者と若い人が共に買い物できる町</li> <li>子供から高齢者まで安心して過ごせる町</li> <li>独りでも安心して生活できる町</li> <li>支援体制の強化、24時間対応の事業所が充実している町</li> <li>小規模多機能の機能強化ができていく町</li> <li>広い公園があり、アクセスしやすく、人が集う町</li> <li>ひと休み出来る場がある町</li> <li>充実したサービスに支えられた在宅で安心して終末を迎えることができ町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流が盛んになり、助け合い、支え合いができる町</li> <li>施設待機者ゼロ、施設が整備されている町</li> <li>福祉会館等、気軽に利用できる場所が充実している町</li> <li>若い世代が地域活動に参加できる町</li> <li>サークル、見守り、シルバー人材の活性化など、元気高齢者が担い手として活躍できる町</li> <li>高齢者の情報（認知症、要介護）を市や包括でデータ化し、見守り・サービスへ素早くつなげることで、高齢者の状態像が悪くなる前に早めに介入できている町</li> <li>福祉人材の育成、サービスの質と量の確保ができていく町</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>若い人達を担い手として働きかけるための活動に取り組む（～65、65～75才元気高齢者）</li> <li>認知症の早期発見への理解を深める取組</li> <li>多職種間での連携システムの強化（カンファレンス・地域ケア・会議等含め）</li> <li>人が集うところづくり（高齢者・住民）イス・ベンチ・スペースの確保</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ボランティアへの関心度アンケート</li> <li>簡単な認知症検診及び情報提供・PR（40～50才から）</li> <li>自宅開放・サロン等の人材・場所の発掘</li> </ol>
栄町	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回に比べ、認知症がらみのトラブルの増加が認識されており、認知症に対する地域の理解の必要性が望まれている</li> <li>高齢者の居場所やボランティア活動における、地域の担い手の高齢化が進んでいることから、多世代、特に若手の担い手を増やしていくことが前回に引き続き必要とされた</li> <li>また、交通・買い物といった点は、前回同様、依然として課題となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が暇があるときに気軽に訪問できる場所がある町</li> <li>居場所作りをしなくても当たり前居場所がある町</li> <li>認知症の方が活躍できる場所がある町</li> <li>当事者中心で色々活動できる町</li> <li>制度に縛られない暮らしやすい町</li> <li>安心して外出できる町</li> <li>お隣さん、住民同士の顔見知りが増える</li> <li>お互いさま精神を持って生活をしていく</li> <li>おせっかい</li> <li>若い世代との交流をしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもから高齢者まで一体的に支援の輪が確立できる地区（若い世代のボランティアが増える）</li> <li>畑から地域支援の輪が広がり、ビジネスにも有効活用できるまち</li> <li>防災体制が確立し安心できるまち</li> <li>ママ友、パパ友、犬友、猫友、じじ友、ばば友</li> <li>同じ趣味の人が集まれる、いつでも楽しめるまちづくり</li> <li>世代関係なく気軽に集まれる場ができる</li> <li>まずはあいさつを増やそう！そして地域の輪を広めよう！</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>認知症への支援・対応・理解不足（やさしい町づくり）</li> <li>転入者への支援</li> <li>多世代の交流の場の発掘、住民同士のつながる場の発掘</li> <li>移動手段の確保、医療機関の解消（はなバスの路線の開設）</li> <li>買物支援、移動販売（デイの中で販売）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>認知症勉強会等の開催。また、講義のみでなく認知症の方と直接ふれあう機会をつくる。活躍できる居場所、普通に使える場を増やす。</li> <li>転入者へのアウトリーチ</li> <li>ハロウィンイベント（練り歩き）子供＆高齢者 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域が繋がる場の提供</li> <li>下保谷福祉会館の活用（既存場所では何かできないか）</li> </ul> </li> </ol>